

さあ／＼だん／＼事情さとしある、よう事情きゝとつてきゝわけ、なんでもなきとおもへばなんでもない、はなししてある、これなんでもない、あんなものでも一つの理をたて、理のはじまり一時の理がわかる、ぜん／＼さいしよ、どれだけのものつかさどつて、はじめだしたか、一人二人でない、月日だん／＼理をうつし、道をさとし、萬事一つの道、元々一つの道をきゝわけ、理をきゝわけ、どれだけのものよせやふて、いかなる事をきく、一つ／＼の道がわからう、ようきゝとつてくれ、道なき／＼さしづ、一つの理とさとし、一つの理と理がをさまらねばたづね、あひだもひまがいてあらう、さしづだん／＼もちいて、一つの理とみな心をよせて理をみるがよい。

押して、おさしづの理によつて、樺枝村の堀内與藏、七條の榊井政治郎引き寄せて下さるのであります哉

願

さあ／＼小供小人事情、一つ一時の處尋ねる、一つのさとしみちの理、一つ／＼あらため事情はこぶ、身上すみやかまちがひあるまい、たゞせかいの理思ふ理であら

う、なんでもなきもの／＼ふるいものどれだけのもの、つかさどつてこちらひきだし、あらしきのひきだし、つかさどつてのつけ、元々はつめいどれだけちゑ、どれだけのがくもんどりのものと云へど、元々一つのはじまりをみよ、あんなもの、こんなものといふやうな、よせてあらいどうぐにも、どんな道具にもつかふてある、これまでまいたるたねをおほり、せへじんすればみがのる、そのみのあぢはひの理をきゝわけてはこぶがよい。

明治二十五年五月二十日

村田長平心あらだち事情願

さあ／＼一人の心々、今の處いかなる事、どういふ事、ようきゝわけ、世界へたいしめんぼくやで、これはまちがふのや、うちそとへだてなく、理をさとし、ふるき事情にさとしある、内々きゝわけくれ、これまでさとせん理もある、とほく、内々そとも、めん／＼事情きゝわけ、けつかうや、たのしみや、日々事情みな事情、しよせん／＼ぜんしよあちらこちら理もある、これだけの理をさまらん、うらみくや

みをもたず、心丈けあらため、いかなるもいんねん、はやく事情さだめてくれ。

明治二十五年五月二十一日

高安部内光道講第十一號西成郡西中島村大字川口集談所を今度同郡中津村七十二番屋敷へ移轉の願

さあ〜さあ、たづねる事情〜、みな〜のところ一つ一日の日を生涯の事情に
をさめるなら、重々の理にゆるしおかう、すみやかゆるしおかう。

明治二十五年五月二十二日

増野正兵衛右目下ふち障り願

さあ〜たづねる、だん〜たづねる處、身の處、あちらこちら、いさゝか身がせ
まる、あんじなき〜ばかり思ふやうになか〜いきやせん、あれもこれも理をか
ね、あちらみればむさくろしい、こちらみればむさくろしい、うらからはいる、お
もてからはいるものもある、事情みちなき處、これようきてとつてくれ、それ〜
き〜とつて、いかなる理もわかるで、うらからでる、おもてからでる、その理をも
つてはいるからみにくい〜、日々の處、これでどうなりかうなり、みちしやんお

だやか〜一つの理、あんじの理があつておだやか一つの理はあろまい。

明治二十五年五月二十二日(舊四月二十六日)

村田慶藏胸せつなきに付願(段々内々事情洗ひ切つて其の上の願)

さあ〜だん〜の事情、にん〜またかはり、事情なるにならん事情である、い
かなるだん〜さしづさとし、それ〜事情をさまりたる、ながらえて、ながらえ
てある事情あらためにならん、さつぱりわかろまい、たいていあらためるであ
らう、大方かうであらうわかればさだめにやならん、小人身がさはる、だん〜事
情あんじるやらう、事情きゝわけ、一度〜さしづ〜の理はたがはん、どうであ
らう、よう事情、月がかはる、日がかはる、たにわかるわからん事情よせるから、
くづれてしまふ、一時どうせにやならん、なるならん事情はこんで、それ〜これ
までしらす〜つくしはこび、年限ともいふ、内々事情あらため、心事情ふんばら
にやならん、理と理とがよせやふてとほらにやならん、おもひ〜の理がふあんに
思ふ、心わからん、そのまゝとほり、一つの理があらはれる、あらためにやならん、

あれかうじや、心の理をひく、一時事情身上せまるく、一つにはあらひきれ、一つのみち、一つの理をかながへ、わからにやなるまい、ようき、とらにやならん。

明治二十五年五月二十二日

林芳松身上障りより返やす事てありますか願

さあくたづねるくたづねにやわからせん、一時たづねる身の處せまる、一つくの理がわからんからせまりきる、やうくの時から一つと云へば、しらずくやうくの道、心の理たいせつの理である、ようき、とつて、ようしやんしてみよ、どんな事さとして、じいうようといふ理がみちといふ、よう事情十分のみちからならずくきりなきといふ、なんぼさとして、どうであらうと云へば、すみやかひまがいてならん、しらずく、しらずくやうくの時からといふ、たいせつなものたて、どんなものしやんく、まあくこれだけさとしたらわかるであらう。

明治二十五年五月二十三日

撫養分教會地所買求めの願

さあくたづねる事情く、さあくひろくといへばひろく、皆々一つ寄合ふた事情、他に事情あろまい、心得のため、心だけの事情はすみやかゆるしおかうく。

明治二十五年五月二十三日

中河分教會本月廿七日上棟の御許の願

さあくたづねる事情く、日限といふ事情、さあくゆるしおかうく。

明治二十五年五月二十四日

高安部内大鳥支教會所を南上神村大字釜室中辻彌太郎所有地の第六六四番地にて取定め願

さあく尋ねる事情く、處々といふ、心得事情一つ又一つ事情は心だけ、心だけの事情はゆるしおかう、すつきりゆるしおかう。

同建物教會所三間半に八間、庫裏二間に八間、事務所二間に三間新築の願

さあくたちや一條、たづねる事情ゆるしおかう、心だけゆるしおくから、何時なりとかがよい。

明治二十五年五月二十四日

高安部内東陶器村大字北に支教會設置願（泉東支教會）

さあ〜たづねる事情〜、ねがひどほり事情ゆるしおかう〜。

明治二十五年五月二十四日

高安部内錦部郡市新野村大字市村に於て支教會設置の願（錦部支教會）

さあ〜ねがひでる事情、理はこゝろ一つゆるしおかう〜。

明治二十五年五月二十四日

河原町部内丹波支教會設置願（山國支教會）

さあ〜たづね出る處々といふ、事情は一つすみやかゆるしおかう〜。

明治二十五年五月二十四日

山本利三郎願

さあ〜たづねる事情〜、日々の處、身の處、事情よくきゝとつて、一時心どほりゆるしおかう〜。

山本利三郎齒痛に付願

さあ〜前事情をもつて尋ねる、身に心得ん、いかなると思ふ、萬事事情心得事情ををさめ、身に事情あればどうしやうと思へどどうもなるまい、身上から一つの理もあるのであらう、たのしみ一つも心の理にあるのであらう、よう聞取つて心おきなう。

明治二十五年五月二十四日

村田慶藏身上より樅枝村の堀内與藏家内引取りの事情願

さあ〜だん〜の事情をもつて尋ねる、身上一つ、又一つ日々といふ、どういふもの、たいていはさとしてある、一つ〜の理をきゝわけ、こゝろそれ〜の事情、今一時たづねる處、ようきゝわけ、なんべんの理にさとせども、心の理によりてひまがいる、今一時事情はこんでならん事はあるまい、年々の事情、いかなるでなつたやらうといふ理さら〜の理にもたず、又一つはこぶ事情、つくす事情、ただ一時では身上ふそくの理、日々内々には一時にをさまる事でけん、なぜでけん

いふ、このみち一つといふ、ことば一つの理でをさまる、内々いんねんの理もあざやかといへばあざやか、どれだけつくすはこぶ、いんねんといふ、ようき、わけ、いんねんもなく、心もあざやかなれば、身もあざやかといふ、そこで内々たんのうの理ををさめる、ようこれだけさとしおかう。

明治二十五年五月二十四日

村田慶藏身上に付七條村榊井政治郎家内引き寄せの願

さあ〜みんなそれ〜一つの處から、事情といふはそれからその理である、これなればかうと、それ〜みな理である、身の處なんてあらうとおもふ、ようき、とれ、あれこれの理は重々の理にさとしたる、なれどみんな心といふ理をよせる、一けん事情、氣のじいうよう、こゝろだけの理はをさまるより、ようおやかきやうだいたもいふ、なれど人々心といふ理がてる、とほくのはなしもおなじ事である、きのあふた心、おなじといふ、たにんといふなれど、心さへあへば、じつ〜の理であらう、一時たづねる處、じゆん〜のみち、せかいの理もある、一時といふ、又

々といふ、年々といふ、これは一つの理にをさめにやならん。

明治二十五年五月二十六日

東部内淺草支教會所を淺草區山川町二番地に於て八間に五間の建物の處御許し伺

さあ〜たづねる事情〜、さあところ事情たづねる、さあ〜たちや事情、それ〜ゆるしおかう、十分ゆるしおかう、すうきりゆるしおかう、心なうかゝるがよいとさしづしておかう。

明治二十五年五月二十七日

兵神部内社支教會舊五月二十六日地搦き普請願

さあ〜事情願ひ出る處、願ひどほり、事情すみやかゆるしおかう〜。

明治二十五年五月二十七日

兵神部内加東支教會所舊五月六日地搦き、十二日普請の伺

さあ〜願ひたづねる事情定めて、一つ事情心願ひ通り事情すみやかゆるしおかう〜。

明治二十五年五月二十七日

兵神部内加西支教會五間に八間の新築願

さあ〜〜事情願ひ出る處、事情願ひどほり、事情すみやかゆるしおかう〜
〜。

押して、十五日より地搗き普請願

さあ〜〜ゆるしおかう〜、こゝろへゆるしおかう〜、すみやかゆるしおか
う。

明治二十五年五月二十七日

兵神部内神崎支教會五日より地搗き普請願

さあ〜〜願ひどほり、事情ゆるしおかう〜、處々夫々事情以てねがひてる、
みな心だけはうけとるで〜。

明治二十五年五月二十八日

播州地方村方より信徒へ改式を止め、村方のつき合と云ふて信仰を止めるに付願

さあ〜とほる道、一つの事情〜、いく〜さきとほる、大へん事情思ふ、に
ほひがけといふ、ふるきさとしにある、一人のせいしんの事情あれば、一國ともい
ふ、思ふ事はいらん、みてみよ、あんじてならん、くらい處はとほさん、あちらで
かうじゃ、こちらであ〜じゃ、だんじ一つ思ふやらう、あんじる事はいらん、だん
〜はじめかけば一日〜、重々の理がつむ〜、つんだ後といふは今迄の道を通
したも同じ事、身の内といふ理があるで、これ一つき、わけたら、なんにもあんじ
る事はいらん、心なうさとしてくれ。

明治二十五年五月二十八日

清水與之助身上の願

さあ〜身の内身上尋ねどういふ事、あんじはいらん、よう事情き〜とつてすうき
りみれば、一寸の理はあらはれてあるであらう、あちら一つの理、こちら一つの
理、なほだん〜さとする處、日々の處、だん〜なると思はず、事情き〜わけ、
身の内ふそくになると思はず、これまで心をさめてくれるがよい。

明治二十五年五月二十九日

御本席齒の痛み頭痛に付願

一七八

さあ〜尋ねる事情〜、だん〜尋ねにやならうまい、きかにやならうまい、事情〜、どういふ事情〜、さあ〜身の内すみやかならば尋ねるまで、一つにはきくまで、さあ身上〜、身上尋ねばだん〜身上だけのさしづしよう、ころえ事情〜、一日のはんぜん〜、身の内さはりよくかきとりて、それ〜だんじ、おほくそれ〜おほくの中の事情、日々の處どういふ事もきく、又みる、又でる、でこすところ、又一つあぶなきこはき一つさとしたる、よくき、わけ、みないををさめてかたりて、日々といふ、日々をさまる、又日々をさまる、これよくき、わけ、だん〜日々はこぶ處、まづ〜さとしおかう、どういふ事とおもふ、日々はたらく中々の事情、ぜん事情さとし席といふ事情、ぜんさとしたる、なんでもないといへば何んでもない、せかい一日〜定めをさめ、はなしをさめくれるやうさとしおかう。

—(1448)—

明治二十五年五月三十日

日々本席へ御授け三名の處事情によつて其外に三名一席運ばして貰ひましたものであります哉事情心得まで願

さあ〜たづねる事情〜、さあ〜まあ一日に三名といふ、事情ぜん〜さとしたる、なれどだん〜つかへて〜、一つき、わけにやならまい、みわけにやならまい、そこでならんだけはゆるしおくによつて、心おきなうはこんでやるがよい。

明治二十五年五月三十日

豊前國中津に於て泉田講社支教會所設置の件に付、此事許可不許可の願事情心得迄に伺

さあ〜事情たづねる處〜、さあまあたいていはそれ〜といふ、のち〜はそれ〜といふ、事情たづねる〜、事情おほくの中といふ、おほくの中にいかなるもあらう、みな世上にあらう、心得、一度はゆるしてしつかりとだんじ、まあしばらくよう事情さとして、まんぞくあたへてさとしてくれるやう。

一七九

—(1449)—

明治二十五年五月三十日（舊五月五日）

榊井伊三郎二日前より左肩おさへられる様になり、左足ねまるに付願

さあ〜身上に心得ん、みちに心得ん、ようきゝわけ、一つさとしおかう、どうでもかうでもをさまる事情、をさまらん事情、日々これ一人事情、たいへん事情、きるにきられん、のくにのかれん事情、ちかくとも云はれん、とほくとも云はれん事情、これさい一つをさまればといふ、一人〜人々の事情きゝわけ、これきゝわけばあざやか、どちらからでもかゝる、又々理がをさまれば、じゆん〜の理もをさまるとさしづしておかう。

明治二十五年五月三十一日

御本席身上御障りに付前御指圖に依り願（南海分教會行より續いて御本席身上すみやかならざるより願）

さあ〜尋ねる事情〜、さあ〜ぜん〜事情から尋ねだす、一時どういふ事であきらかならん、すみやかならん事情何もあんじることいらん、なれどわかりがあつてわかりがないといふ處さとする、一日はてる、一日はふる、これ二つさとする

によつて、たがひ〜あらひかへ〜。

さあ〜よき日ばかりならなにもおもふ事いろまい、たび〜といふ、重々一つのはなし、事情にでる、どういふ事も今まであらう、二つ三つだすによつて、皆のころにうかんで、だんじとりてくれるやう。

明治二十五年五月三十一日

豊前國中津にて講社結成の處北分教會に當分預け置く事願

さあ〜だん〜たづねる事情〜、どこにへだては一つもない、どうもならん一つ理、あいそつかすであろまい、處かはる道具もある、これからだん〜だんじをかけ、一寸ふみとまる、一時だん〜の道によりて、ふかき一時の處まんぞくあたへ、どんな事でもなるで、とほいところおほくの中、いくへもある、また〜日をおくりたる、そこ一つみわけ、そこへ〜の理のとまるところ、理をはじめてやるがよい。

明治二十五年五月三十一日

郡山部内上野出張所設置願

さあ〜たづねる事情〜、すみやか許しおく、心おきなうかゝるがよい。

明治二十五年五月三十一日

郡山部内新居出張所設置願

さあ〜だん〜事情、それ〜處、事情あきらかにゆるしおく、心おきなうかゝるがよい。

明治二十五年五月三十一日

郡山部内龍山出張所設置願

さあ〜事情たづねる處、一つ處、事情〜ゆるしおく、心おきなう事情ゆるしおかう。

明治二十五年五月三十一日

郡山部内山陰支教會月次祭舊毎月十三日、御靈祭新毎月二十日、入社祭新毎月八日、説教日一日六日十六

日の願

さあ〜たづねる事情〜、心に事情、心通り願ひ通りすみやかゆるしおく〜。

明治二十五年五月三十一日

郡山部内谿羽支教會月次祭舊毎月十七日、御靈祭新毎月十一日、入社祭新毎月三日、説教日毎月二日二十日二十二日の願

さあ〜願ひ通り〜、事情ゆるしおかう、ゆるしおかう。

明治二十五年五月三十一日

郡山部内雲濱出張所月次祭舊毎月二十日、御靈祭新毎月七日、入社式新毎月一日、説教日五日十五日二十五日の願

さあ〜願ひ出るところ、事情すみやかゆるしおく〜。

明治二十五年五月三十一日

山名部内白羽支教會月次祭舊毎月十日、御靈祭新毎月五日、入社祭新毎月十七日、説教日五日十五日二十五日の願

さあ〜願ひ通り、心事情ゆるしおく。

明治二十五年五月三十一日

城島部内和歌山市西紺屋町五番地に集談所移轉の願

さあ〜たづねる事情、元一つはじめて、又一つ處と重々の理、ならんじやない、みな心ふかき、こゝろどほりまかせおく。

明治二十五年五月

御本席南海分教會へ御出張に付隨行員山本利三郎、平野樹藏、山澤爲造より無事歸會の旨申上げ御指圖

さあ〜一寸はなし、をひくのはなしも、だん〜つたへんならん、日々の處とほりきたる處、よぎなく中々の理、一日ゆるつとしてこくげん一つの事情といふ。

明治二十五年六月一日

郡山部内日和支教會普請事務願

さあ〜たづねる事情〜、さあ〜たづねる事情、さあ〜事情はすみやか

ゆるしおかう〜、又たちや〜すみやかゆるしおかう、萬事ゆるしおかう、ゆるしおくが、何もていねいにしてはいかん、さあとしておくねて〜、さあ〜か、れ、何時なりとかゝるがよいて。

明治二十五年六月三日

五月三十一日の御指圖に「二三つだすによつて」とあるより一同相談の上願

第一、御本席他より招待の節一同相談の上、中山會長様へ申上げ順序正しくする事

さあ〜一ど二ど、事情だん〜さとしおいたる一つの事情、ようき、わけて、それ〜だんじともいふ、とほくところへてこすところ、心もをさまれば、又一つあと〜の理をさとさにやならん、どういふ理をさとすなら、これようき、わけ、何年いらいといふ、年は何年たつたといふ、日々ともいふである、おほくの中にはいろ〜ある、けふといふけふにもある、あすにもある、ようきいておかんならん、一日の事情といふ、又日々といふ、日々の中いろ〜の心といふ、一つはせかいといふ中にいろ〜、一日といへば、あさけつこうといふ中に、あすといふ、よりく

る中にいろ／＼だん／＼ある、どれだけの中といへばをさめにやならん、いつ／＼まであぶなきでは、さき／＼あんじるやろ、けふはくもりなき、あすはわからうまい、十ぶんはこんで、十分といへばたのしみ、身に不足あればあんぜにやならうまい、萬事一つの心が第一、きれいの中からむさくろしい理はきかさんやう、みせんやう、理はかゞみやしきやで、日々さとしおいたる、どうもくもりありてははれやかとはいはん、しつかりきゝとりてくれ、日々の席をやすめばどうであろ、つとまつた日は夕けいあんらくといふ、あす日どうも日々の處聞分け、しいかりとみなきゝわけて、みなきゝわけ、むつかしい道のやうにおもふ、たのしみの道やで、一どゆるしおかうといへば、こはきあぶなきないといふ、これよくきゝとらにやならん。

第二、御本席に對し日々の扱ひに付何か不都合あります哉伺

さあ／＼たづねかけるであろ、理もわかるであらう、たづねかけたら理をさとさう、あざやか理をさとさう、一日の日はこはきおそろしさとしたる、どんな事情せかいといふ、さとしたる、ようきゝわけ、幾人を家内、何人すむ、日々たのし

み、こゝろのたのしみ、日々御禮一つの理をきゝわけ、かないこどもは、つきそひはあたりまへ、まにたるたらんはめにみてわかるやろ、これきゝわけ。

第三、上田奈良糸様御教祖の守事情の願

さあ／＼七ど事情のさとしをしよう／＼、なんどはこんでなんど事情、七ど事情の理にさとさう、今の處ではとんとわからまい、どういふものとおもふ、十ぶん内々、何度のたづねしばらくとめおくといふたる、七ど／＼のさとし、どういふものであのものにほどのものであろ、なれどぞんめい一つさだめおいたる事情ある、それより七ど事情、あざやかさとし、いんねん事情、人の事はわからせん、じぶんの事はなほさらわからん、これ一つさとすによつて。

第四、村田長平大裏に入れてあるのが宜敷ないので御本席身上障るのであります哉

さあ／＼こゝろをたづねる／＼、みなこゝろにかゝる、日々かゝる事情あらう、どこへいたとておなじ事、しばらくのところ、あのまゝちつとさとしておくがよい、どつこへいたとていかせんで、どういふ事いふ、あゝいふ事いふ、そんな事ぐらゐ

やないで、まあしばらくそのまゝ、ぢつとさしておくがよい。

一八八

明治二十五年六月三日

五條支教會所毎月舊二十四日月次祭、毎月新一の日説教及九つの俵物の願

さあ／＼／＼事情はすみやかゆるしおこ、又一つはぜん／＼／＼さとしたる事情をもつて、理はゆるしおかう、さあゆるしおかう／＼。

明治二十五年六月四日

本席様に附添の件に付伺

(前々よりの指圖により之れ迄抜人に西田伊三郎附添の處、何かに不都合多きより、以后前川喜三郎、松田音治郎の兩人日々交代にて取扱ふ事)

さあ／＼／＼たづねる／＼、だんじあひ事情からあれこれ又々の理をはこび、事情といふ、あらためて事情願ひでる處、じゆん／＼／＼道もある、しゆんもある、何かの處まかせおく。

—(1458)—

明治二十五年六月四日夜

刻限の御話

さあ／＼ウ、さあ／＼／＼、よくきけ／＼、さあ刻限、前々よりもはやくのはなしにつたへたる、三年といふ、千日と日をきりて、あゝだん／＼／＼せまりである、あゝだん／＼／＼きゝわけ、だん／＼／＼きゝわけてくれねばならん、何程さとしたとて、何もわかりやせん、はなしだけ、他の事やあらうまい、めん／＼／＼の事、きくにきかれる理やあらうまい、是一つ公然の理に立て、もらひたい、おほくの中、ほんの取りはなしみたやうなもの、十分きまつた理もさとする事できがたない、たれに一つもきかさず、もらさず、是もむかしからかく、おほく世界一列の處へたよりするやうなもの、一つこくげんといふきかしてある、十分の理さとしたら、せかいどれだけはなし、刻限といふ理は今の處きかす事できやうまい、やう／＼／＼十のものなら、一分の理しかさとしてない、もうだん／＼／＼にこくげんのはなしといふは、みなちからが在るやろ、たのまれた事はえてかつての理である、しらしにきたはなしなら、十

—(1459)—

一八九

ぶんきくやうといふのに、いらんといふてにげあるくやうなもの、千日といふは日がつんでほどなくたつ、たいていづんである、是からだん／＼にさとすから、かこひの中から、はなしとほく聞かさず、だん／＼それ／＼、いつになりたらきかず、きかさずつくした理に、しんじつはなし、しらんわい／＼、けつこうやといふてゐるなれどわかろまい、てはいりだけしかわからん、ぜん／＼こくげん事情もつてしらしおいたる、たがひ／＼はなしあひして、ぜん／＼はかういふ道であるときとして、いつ／＼までのため、じゆん／＼の道は、おほくのところへはさとせやうまい、おほくの中にすんで／＼はやくくみにこんかいなど、水をすましてまつてゐる、是は千日のあひだにできたのや、それ／＼はなし、にごつた水のところは、一夜のやどもとれやうまい、すましてゐるからそれできる、わしがにほひかけた、これはおれがひろめたのやといふ、是も一つの理なれど、まつてゐるから、一つの理もつたはる、それからそれをさまりかけてある、今一時わかる、これよほどつかれてゐるから、どうもはなしつたへがたない、もうこれ一つのはなしにして、又々

さとさんならん、あちらこちら、をひはなし聞きながし、なんどきとんでしまふやらといふやうな所ではさとしてけがたない、かたろにかたられん、やりながしといふは、おほく人ので、くるをまつてゐる、それはなんにもならん、一寸いふは、一寸しやんの上の理である、これ一つ聞取つて、じゆん／＼の理にさとしてくれ、こくげんは千日の中、どつこへもだすやない、きかすやない、内々こゝろえ、たのしみまで、一寸だしておく。

明治二十五年六月四日

増野正兵衛御指圖、裏から出る、表から出る理と、かこひの理とを尋ね、又身上目かひ左の目ふち下へめばちこと云ふもの出来しに付同

さあ／＼たづねる處／＼、一寸の事情／＼、たづねば事情一つ／＼の理もだん／＼さとしたる、身上ふそくなんであらう、だん／＼さとしたる理をあつめて、一つあらためてみるがよい、ほそ／＼よりの道、これまでの道、あんぜ／＼の道、日がらとも云ふ、身上どうであらうと心にもたず、一寸事情があつて尋ねばさしづ、ぜん

くくはしくさとしたる、ぜんくくさとしあれど、これとの理を合せ、一つくくの理を尋ねて、今日は今日、あすはあすと云ふやうでは、ぜんくくからの道が分らうまい、ぜんくくから一つ身の處、事情があつて尋ねる、いくへのさしづもあらう、引き合せてみよ、成程の理もわかる、身上あんじる事いらん、ふるいくくさしづを合せてしあんせよ、理を合せてある、これ一つさとしおかう。

明治二十五年六月四日

増田つね上願

さあくくだんくくの理をもつてだんくくの理をたづねるくく、だんくくの理たづねば一つのさとし、如何なるもさとし、だんくくのさしづこれまでぢゆうくくの理にさとしある、身上せまると云ふ、たがひくくそれくくはこび、一時あきらかの理をたづねる、よう聞分け、わかりがたない、何度たづねてもさしづの理も一つ、よくくく聞分け、あざやかと云ふ理があれど、わからねばわからん、それくくの心をあつめる處、ぢゆうくくの理にうけとる、どういふ事であらう、あれまでつくしはこん

だのに、どういふものと思ふ、思ふは一つの理なれど、ぜんくくぢゆうくくさとしある、わからねばあざやかとは云へやうまい、なるもならんも因縁一つの理も聞分けてもらはにやならん、今一時なんでもと云ふ理はぢゆうくくうけとる、一軒かぎりの理もさとし、一ヶ國一國の理もさとしたる、因縁の理も聞分け、なかくくの理を聞分けば、いんねんならと云ふはさらに思ふまい、ようきくわけてくれ、一時の處いつくく精神あつまる理をたよりてするなら一つの理はある。

押して願

さあくくみんなそれくく事情、これまでつくした理を思ひ、たがひくくつくした理、一日の日の處はぢゆうくくの理にうけとる。

明治二十五年六月四日

増田つね身上に付平野権藏心符の爲め願

さあくくたよりないでくく、たづねるくく、たづねるほどあんぜにやならん、あんぜはきりはない、はつと理をあつめるだけ、そこでみんな一つの理にさとしてあ

る、たれにじつ一つの理はさとすまで、これ一つ聞きとつてくれ、あんじてはいか
んじ。

明治二十五年六月八日

静岡縣伊豆國豊田郡二俣にて山名部内二俣支教會所設置願

さあ〜たづねる事情、願ひてる處、事情ゆるしおかう、さあゆるしおかう〜。

同所三百八十七番地鹽崎丹治邸宅に於て建設の件願

さあ〜たづねる事情〜、ところ事情、さあ〜だんじ一つの理にすみやかゆる
しおかう、さあすみやかゆるしおかう。

明治二十五年六月八日

静岡縣加茂郡下田町廣岡に於て山名部内下田支教會所設置願

さあ〜たづねる事情、願ひ事情さあ心だけの理は十分すみやかゆるしおかう、ゆ
るしおかう。

同所三百十番地持主山梨善藏の地所を買受け建設仕度事情願

さあ〜心さいすみやかをさまりたなら、心だけすみやかゆるしおかう〜。

明治二十五年六月八日

静岡市安西一町目南裏町に於て山名部内静岡支教會設置願

さあ〜願ひてる處、ねがひてる處、さあ理はすみやかゆるしおかう〜。

同所十番地主良知寅松家屋にて建築致し度件願

さあ〜たづねる事情、さあ一寸のかゝり、ところといふ事情〜は心どほり、さ
あ〜ゆるしおかう〜。

明治二十五年六月八日

河原町部内若狭小濱支教會所普請興行八間半、間口五間半の處願

さあ〜たづねる事情〜、さあ處事情、一つさあ理は十分ゆるしおかう〜、さ
あ〜心だけの理はゆるしおくのやで、心だけは十分ゆるしおかう。

明治二十五年六月九日

山名部内熱田出張所愛知縣愛知郡熱田町傳馬百七十番地加藤庄太郎持家を借受け假に設置致し度願

さあ〜たづねる事情、ねがひ通り事情ゆるしおかう、さあゆるしおかう〜。

明治二十五年六月九日

山名部内大津出張所静岡縣志太郡大富町中新田百四十八番地鈴木鏡太郎宅にて設置願

さあ〜事情ねがひ通り事情ゆるしおかう、さあ〜ゆるしおかう、さあゆるしおかう、さあゆるしおかう。

明治二十五年六月九日

山名部内島田出張所静岡縣志太郡島田町千六百八十六番地八倉巳之助宅に設置願

さあ〜事情〜、さあ願ひ通り事情ゆるしおかう、さあゆるしおかう〜。

明治二十五年六月九日

山名部内瀨美出張所、愛知縣瀨美郡清田村古田四十二番地鈴木利兵衛宅に於て設置願

さあ〜ねがひ通り事情ゆるしおかう、さあゆるしおかう。

明治二十五年六月九日 (舊正月十五日) 夜十二時

村田長平小人慶藏身上の願

さあ〜たづねる事情〜、身上いつ〜までも、又あざやかならんとたづねる處、ようき、わけ、どういふものであざやかならんとおもふ、日々事情、たてやふたてやひ、一つ事情、内々みなそれ〜事情あらためて、第一よほどなあといふ事情、しのぎ一人事情わからん、つい〜事情なるならん、ちよつとおもてみて、あざやかといふ理一つをさめ、どういふ事をあ〜といふ、一つ内々それ〜さとしたる、一つみちさだまらん、をさまらん、日々どうであらう、いかなる事であらうといふは理、みなかういふ一つ理あらため、おぼつかなき事とあんじる理、おぼつかなき事さとせるか、さとせんか、日々の處しやんして、一つさとして、一寸いつからどう、こんどからあざやかならん處、ようさとして、來年はどうと、一年たつたらどう、のち〜さだめにやならん、ふあんの事であざやかならん、あざやかならん一つ理がかゝる、かゝる處、一つさとすによつて。

押して、榊井政治郎の事に付引越し事情願

さあ〜一時に一つ理はをさまりがたない、一つには處といふ、ながらくていつか

らといふ、一つにはたよらないなあと、一つ事情たづねばさそう、事情心にさし
 いらて、のこる一つの理といふは、一時理おもふ一つ處、理がのこるであらう、こ
 れからさきの事情、一年なら一年、一つたんのうをさめさして、いつかたつたらあ
 んしん一つ理もある、そこであんしんをさまれば、めんくふかき一つのこる、あ
 ざやかさとしてをひくなんがげつたつと、あんしんさしてはこぶなら、のち
 く十分の理であらう。

明治二十五年六月九日

諸井ろく身上事情願

さあ〜事情たづねる處、小人事情たづねる、いかなる事であらうとたづねる〜
 は一つさとそ、よく聞分け、おほく事情は、せかい事情はじめかける、ようきゝわ
 け、あちらにて一つ事情、こちらにも一つ事情、だん〜一つ事情、一名一つ事情
 もつてあざやか、これ一つをさめにやならん、十分をさまり、をさまりが第一、よ
 くきゝとりておかにやならん。

明治二十五年六月九日

増田つね身上に付山本采り山本より願

さあ〜たづねる事情〜、一度は一つの理もをさめて、一日の日もたんのうさ
 し、それ〜だん〜つくしはこび、だん〜ときほどき一つたんのうさゝにやな
 らん、ならん理聞分けて、ならん理からいんねん一つこれ聞分けて、これ一つ心へ
 さとすによつて、にち〜たがひ〜はこぶ處うけとる、みなにち〜はこぶ處か
 ら理ををさめにやならんと云ふ處さしづしておかう。

明治二十五年六月十日

南海部内紀熊支教會普請の願

(南牟婁郡入鹿村大字矢の川二十九番地にて教會所奥行六間半間口六間の建物、事務所は七間半に四間の建
 物御許下され度願)

さあ〜たづねる事情〜、さあねがひ通り事情はすみやかゆるしおかう、すみや
 かゆるしおかう、さあたちや一寸かゝり、一つ心あつめて、じゆん〜の理に何時

なりとゆるしおかう。

明治二十五年六月十一日

荻津部内池田支教會を池田町字田中町二千九百九十一番地へ移轉の願

さあ〜たづねる事情〜、ぜん〜に事情、一つ一時といはず、一つあらためて一つ、さあ〜かゝるがよい、さあ〜ゆるしおかう〜。

明治二十五年六月十二日

山名部内中泉支教會所設置願

さあ〜事情ねがひどほり、さあゆるそう〜。

明治二十五年六月十二日

山名部内周智支教會所設置願

さあ〜たづねる事情〜、ねがひどほり、事情ゆるしおかう、さあゆるしおかう〜。

明治二十五年六月十二日

南紀支教會所設置願

さあ〜ねがひてる事情〜、ゆるしおかう、さあ〜ゆるしおかう。

明治二十五年六月十二日 (舊五月十八日)

七條榊井政治郎妻すゑ身上願

さあ〜一時たづねる事情〜、身上一條、事情たづねる、一寸きけばこれまでの事情、とほくのやうにき、一時といふ、事情さだめる處、とんとはかりがたないとおもふ、それ〜みんなはなしといふ理おこらへる、いけばそのまゝ、ようき、わけはなにもあんじる事いらん、いろ〜心に理をおもふ、身上にせまればどこにたのしみの理はあるか、一時はいつ〜までもとおもふた、一日の日もあらう、しゆんをおもひさだめにやなるまい、身上あんじる事いらん、一時さだめる處、あんじる事はいらん、かうと理をあらためたる處、みえるみえんはあらうまい、一時さだめば身もをさまろ。

押して、田地かたづけの願

二〇二

さあ／＼たづねる處／＼、これまでの事情、心をさまりたる處、一日三十日といふ、三十日の日はついたつ、三十日やない、三年五年はたつた、たのしみはあれどあとなあといふ處、なあとおもふ、おもふは理、なれど一時さだめにやならまい、まあとおもへば、じつと心にをさめるがよし、なんたる理を一つをさめにやならん。

明治二十五年六月十五日

前刻限の御話により、又御本席身上御障りの願

さあ／＼たづねる處／＼、尋ねるまでの理であらう、いかなる理もきゝとらにやわかりがたない、どういふ理さとするともわからん、さとしたところからどうかかうか、理はいはんやう、さしづだん／＼せかいきゝわけ、定めくれるやう、さとしの事情これからといふ、さあこれまできいたるところ、天然自然のはなし／＼、だん／＼世上こはきあぶなきおそろしい、なさけないとさとしたる、たいへんなる處、

—(1472)—

理を聞分け、いかなる理もあざやかゆるしさとしたる、どういふ理もさとしたる、一時事情もつて尋ねてたるところ、ゆるしおいたるところをかへる／＼、をひ／＼事情、世上だん／＼の事情、じゆん／＼あかるい道といふ、じゆん／＼のみちをひらいて、地所ひろく／＼といふ、これ一つ事情聞きとれ、日限事情、すみやかかわからうまい、うつる／＼事情、たいへん事情かうと定め、おもひたいへん事情、だん／＼はこびかけるところ、あざやかかゝりといふて、それ／＼心をもつてほそ／＼の理といふ、地所ひらいて、そのまゝ事情、一方一寸始めかけ、かゝりといふ、年限さとしおく、二年三年それ／＼たのしみの道、天然の理、たのしみ／＼のみちであらう、しきつた道をとほればとほれやうまい、まだ聞きとりわからまい、一年でないで、十年でもないで、一人や二人で一つのころをあつめたぶには、世界といへやうまい、これ一つさとしおかう、たいそうなる事受取れん、たのしみといふは、さきながくがたのしみ、それ／＼だんじ、ころあらひかへて、ながくのみちとほらうやないか、たのしまうやないか、しきつてとほれば身の内くるしまにやなら

—(1473)—

二〇三

まい、くるしみさゝにやならうまい、一時のところ、身上せまりくる、せまりくれば道もせまる、これからかゝるほそく守護のみちは、十分つくである、ことにまいて、ことにとれやうまい、一時にみえるは天然とはいへやうまい、これきゝわけすれば、年々の事情、これだけさしづしておかう。

明治二十五年六月十五日

墓所の事に付事情願

さあくくだんく事情、それくたづねる處く、一つはじまる事情といふ、だんくそれくせかいといふ、だんく道の處からはこび、せかいあかるくといふ、さあくをひくの事情もつてたづね、それくにまかせおく。

明治二十五年六月十五日

山名部内出張所小牧町姥原治郎左衛門持家に於て假に設置願(小牧出張所)

さあくたづねる事情く、さあ事情もつてたづねる處、理は十分ゆるしおかう、ゆるしおくがこれ第一といふ理は理やで、理が理といふ處さとしおくによつて、理

は十分ゆるしおかう。

地所擔當市村米彦に改む願

さあくねがひ通り事情はゆるしおかう、ゆるしおくが又萬事の處、心得の爲めさとしよう、さあくいくへのみちもあらう、どういふみちもあらう、ようき、わけ、理が理であるといふさいをさまればどんな事でも治まる、これだけさとしおかう。

明治二十五年六月十五日

増田つね身上願

さあくだんくの事情たづねるく、さしづと云ふは、ぜんくさしづ、なんど事情をひく定まり、たいていこれならと定めてあるやろ、身上一つ一寸と云ふ、また一寸といふ、如何なる事であらう、精神定めてまだ身上と云ふ處たづね、自然くそれくの事情、いんねんの事情あざやかをさめ、いんねんと云ふ處よう聞分け、何時事情、あなじばかりではならん、まだ一時といふ、さあしいかりせ。

明治二十五年六月十七日

増野正兵衛居宅模様がへ並に南の方へ古き建物増築の願

さあ〜尋ねる事情〜、尋ねるからこれかつて事情にまかせおく、心なうするがよ。

明治二十五年六月十七日（舊五月廿三日）

村田長平身上より櫻枝村堀内與藏家内中ちばへ引き寄せ、又櫻枝の方は堀内菊松残しおく事の願

さあ〜事情たづねる處〜、一つの事情、一時理をもつて一つをさまり、事情一つの事情、一時たづねる處、事情理はおなじ理とおもへ、理といへば日々多くの中くらす中、くらす處、一時の處、一寸どうも、一時の一つのしゆんといふ理がある、あと〜つなぐ〜、のこしじゆんじよ、さき〜たのしみ、ふうふともいふ、あと〜理をのこしたる處たてにやなるまい、しゆんといふ理がある、一時の處はこびかたない。

さあ〜とりそこないあつてはならん、夫婦一つ一人さき一つ、をさめかた事情、

をさめかたのち〜たのしみ理をとりちかへてはならん。

又さしづ

さあ〜とりそこなうてはならん、夫婦一つ一人、さき一つをさめかた事情、をさめたか、のち〜たのしみ理をとりちかへてはならん。

又さしづ

夫婦さき〜、さきの事たのしみわからんにやならん、小人夫婦といへば一時にとるであらう。

又押しての願

さあ〜まだわからん、一つ事情、一時わからん、一人小人そだておき、さき〜ながく〜さとしたる、一時はこんでもよき、家内一時はやくさとしもある、小人第一事情を日々をさめたる、その夫婦その事情はこんでもよい、あと〜事情にをさめたるどころ、これよくき〜とらにやなるまい、これよくき〜わけ。

又さしづ

まだわからん、小人といふ、小人といふ理がある、小人日々にたいせつそだてたる事情、それに夫婦の理がなくてはならうまい、内々先々長く、今からはこんでなきもの。

又さしづ

さあ〜わかりかけた〜、その事情ならなんどきなりとはこんでもよい、おや一つたがひ〜、あちらも身や、こちらも身や、これ一つの理にさとしてくれ。

明治二十五年六月十八日午前三時十分

刻限御話

さあ〜もうつみきつたところの話〜、おくれた〜、おくれたはなしといふは、おほきいやうなもの、むつかしいやうなものなれど、ほつといてゆけばゆける、どんな道か〜りといふ、か〜りはゆける、なれど山坂へかゝる、けふといふてけふにゆけやうまい、あすといふてあすにゆけやうまい、幾日かゝる、しやんせねばならん、はなしといふはみちである、一つ〜事情、いかなる〜、さあ〜お

ほく〜ひろく〜、おほく〜、ひろく〜といへば、どういふ事がひろくといふ、さしづの道がひろくとおもふか、はやくかきとれ、た〜一つおほくの中、よき日ばかりなら何もあんじる事いらん、たのしみだけ、中の中、山坂どこ〜、事情〜一時はこぶ〜、この道はやくにき〜とつてくれ、おほくの中からよりくる道、なんぼでもわからん、ぢゆう〜こくげんにもさとしおいたる、とほいとこはじめかけにやならまい、どれだけ不自由であらうが、きいてけつこう道がはじまる、事情おくれる、事情かゝる、はやく事情き〜とつてさとさにやならん、いそいでかゝれば身にかゝる、これ一つだんじてくれねばならん、たいそう〜たいそうかけてはならん、たいそうといへば身上にかゝる、事情さとしおかう、この身のがれるのがれん、たいそうはのがれやうまい、これみな何やかや取りまぜてあるから、よくき〜わけ、たいそうたいへんといへば、よき事にもとれば、なんぎな事にもとれる、たいへんといふ、これどちらへもとれるといふは、心といふ理、これ聞取りて、さあくはしいかきとれ、さあ〜どんなものうごかすも、もつてあるくも、

おほぜいのちからで自由用自在、皆心のそらふたが自由用ぢぎい、こちらがうごいても、こちらがうごかんといふやうでは自由用やない、一々の理、理と理と一つの理でをさめかけ、あぶないところでも、つれてとほりて、是から順序、もうひろい／＼、にほひかけ理も定まる、尋ねかけをさまる、たいそうといふ理よりえらい理はない、よい方もとりや、わるい方へもとれるといふはいき一つの理にとまると、あちらからも、こちらからも、たゞけつこうといふ理は、じゆん／＼受取る、けふは夜のめもねずに、一人手がかゝる、しんばいすれば、一日二日たてば、みなのものもどりてくる、しつかりだんじてくれ、おらしらなんだといふやうではならん、こゝろの合ふたもの、なんぼとほきてでも、ちかき處でも、心の理が兄弟、一日の日といふ、なにほどとほいといふ、いつ／＼心のおなじ、自由用自在、こゝろちがへば自由用かなはん、ちばとりあつかひみわけき、わけは、こゝの理わからん事は又たづねかけ、自由用一つの理もさとそ、これはたづねたら、かつてがわるいといふやうな事ではならん、やう／＼の道をひろめ、どうなりかうなりをしへかけ日

をちぢめた、それよりだいといふ、十年や二十年や三十年やない、だん／＼一人一つのものといふ、なにほどのもの、えらいといへど、一つの理がわからいではなんにもならん、もうこれだけ道もひろまつた、もうだいじようぶとおもふ、まだ／＼十分やない、一寸のかゝりといふ事情、これからといふ心を定めてゐたら、あぶなきはない、十ぶんのほればくだるよりほかはないほどに、これ一つさとしおかう。

明治二十五年六月二十一日

島ヶ原支教會地場き書六月三日に致し度願

さあ／＼たづねる事情／＼、さあ事情はすみやかゆるしおかう、心なうかゝるがよい、さあ／＼ゆるしおかう／＼。

明治二十五年六月二十一日

高安郡内古市支教會普請願(教會は四間六間一間支關附、庫裏四間二間、二間三間二棟)

さあ／＼願ひ事情／＼、さあ／＼ねがひ事情はゆるしおかう、心なうかゝるがよい、すみやかゆるしおかう。

明治二十五年六月二十二日

撫養部内徳島市富田浦町に於て支教會設置願 (名東支教會)

さあ〜たづねる事情〜、事情處一つ事情はゆるしおかう、すみやかゆるしおかう。

明治二十五年六月二十二日

南海部内西牟婁郡岩田村に於て支教會設置願 (擔任教師西松太郎、中紀支教會)

さあ〜事情もつてたづね出る處、事情はゆるしおかう、事情は心おきなうすみやか〜。

明治二十五年六月二十二日

南海部内南牟婁郡尾呂志村に於て出張所設置願 (擔任教師山田龜吉、尾呂志出張所)

さあ〜事情もつてたづねる處、事情はあさやかすみやかゆるしおかう。

明治二十五年六月二十二日

南海部内南牟婁郡市木村に於て出張所設置願 (擔任教師中西庄六、市木出張所)

さあ〜たづねる事情〜、處一つ事情ゆるしおかう〜。

明治二十五年六月二十四日

教祖様御墓所石玉垣造る事の願

さあ〜たづねてる處、一つ事情、尋ねてる事情、一ついづれ〜事情はさしづ、事情〜どうがよかろやかうがよかろ、それ〜心をあつめてはこぶところ受取る、なれど事情〜、處々よきき、とれ、仕切つた事情はまだ〜、一時の處どうでも受取る事できん、どういふもので受取る事できんなら、地所はやう〜の理にあつまりてをさまり、一日ともいふ、幾日〜事情、仕切つた事情は、たいへんといふ、きつしようといふ定めてくれ、一つをさまりてある處、事情さあ〜〜どうがよかろ、かうがよかろ、いろ〜理をよせる處受取る、いつまで事情かうしてといふ理をもつてはじめてくれ、これでといふ出来はまだ〜さきの事、年々長い間のたのしみ、むすんでしまふたら、それしまひの理である、處々あらためて、事情はそれ〜といふ、一時のさしづにおよぼう、十月といふ定めたおうほふの理をもつ

て世界といふ、地所といふは地をならした、おほかたこゝがさうであらうかといふ、一日の日をもつて年限の處は二年三年、あざやかといふは、まだ〜事情はやいによつて、これ一つさとしておく。

明治二十五年六月二十四日

中山會長様御歴代御陵參拜の爲め御出向の願

さあ〜それはまあぜん〜のみちをはこんで、こゝろなけりやなるまい、これはとめるやない、つくす事情であるから、受取る處といふ。

地所をふみならしてかよひみち、あら〜の道をつけて處といふ、そんならいつからふしんにかゝる、いつになりたらできるぞいなあといふ、なれどほんにこれかいなあといふ事情にをさめるなら受取る、しきつた事情はうけとれん、これ一つよう聞いてくれねばならん。

右に付隨行員清水與之助、梅谷四郎兵衛、山本利三郎、松村吉太郎の四氏願

さあ〜それはどうなりと、こゝろにまかせおかう。

明治二十五年六月二十四日

兵神部内支教會を播磨國神東郡大山村に於て設置の願(神山支教會)

さあ〜たづねてる事情、さあねがひてる處、一つ事情ところ事情、さあすみやか事情、さあゆるしおかう〜。

同地所及普請御免の願

さあ〜尋ねる事情〜、ねがひどほり事情、心だけの理は何時なりと、心だけの事情はすみやかゆるしおかう。

明治二十五年六月二十五日

南海部内三重縣北牟婁郡尾鷲町字中井浦百六十一番地に於て結成所願

さあ〜願ひ事情、すみやかゆるしおかう〜。

明治二十五年六月二十五日

和歌山縣東牟婁郡西向井村大字神の川五十六番地に於て南海部内信徒結成所願

さあ〜處事情、願ひ出る處、さあ〜ゆるしおかう〜。

明治二十五年六月二十五日

南海部内和歌山縣東牟婁郡上太田村字中の川五百六十九番地に於て結成所願

さあ〜〜事情〜、處事情一つ理をすみやかゆるしおかう〜。

明治二十五年六月二十五日

南海部内愛知縣愛知郡熱田町字傳馬百八十五番地に於て結成所願

さあ〜〜たづねる事情、ねがひ通り事情はすみやかゆるしおかう〜。

明治二十五年六月二十五日

南海部内西牟婁郡東富田村大字富田に於て結成所願

さあ〜〜願ひでるところ、事情それ〜事情處、事情〜はすみやかゆるしおかう、さあ〜〜ゆるしおかう。

明治二十五年六月二十五日

南海部内紀國栗栖川村大字北郡に於て結成所願

さあ〜〜ねがひ出る事情〜、事情はところ一つ、さあ事情は一つ、さあ〜〜ゆる

しおかう〜。

明治二十五年六月二十五日

南海部内西牟婁郡三舞村大字久木に於て結成所願

さあ〜〜事情願ひたづねてる處、さあところ〜、さあ〜〜ゆるしおかう、さあゆるしおかう〜。

明治二十五年六月二十五日

南海部内日高郡眞妻村大字崎原に於て結成所願

さあ〜〜たづねる事情〜、さあ事情は一つところ、事情さあ事情はすみやかゆるしおかう、さあゆるしおかう〜。

明治二十五年六月二十六日

村田長平小人慶藏夫婦の事情に付願

さあ〜〜事情たづねる處、ぜん〜もつてさしづにおよぶ處、夫婦といふてさとしたる處、一つには一時なんどきなりととさとしたる處、たづねる、たづねば一つさ

とそう、今一時たがひく、一つあちらこちらといふ、つい、事情さだまれば理もをさまる、さきくたのしみ、今一時にたづねる、一時三名の處、中一つの處とさだめて、事情をさめてはこべ。

押して願

さあ、それはどうせと云はん、ならんとは云はん、心といふ理をさめば、しやうがいをさまる、一つたがひく、理をさまればをさまる、それよりをさまる理はないで、よう小人たる處、一時はこび、一時一寸どうであらうと思ふ、その心をさめてやれ、それより年々月々の心なくば一つの理と云へまい、これ一つさとしておかう。

續て萬事運ぶ處の事情をさまれば長平の身上の處もをさめて下されます哉願

さあ、事情く、事情も心にかゝりて一つたづねにくい理であらう、たづねば一つさそう、一人の處いかなる、それく事情はこび、なれどまだといふ、なれどなんめいくらす中、人々一人の心もつてをさめたる處、人々一人しらずく、中に

そう處、いんねんよる處、いんねんようき、わけ、一人の心さんげい第一といふ、これ今一時どうなるとおもふ、なれどさきくたのしんで一つの心をさめくれるやう。

明治二十五年六月二十七日午後三時十分

刻限

ウ、、、、ワ、、、、はらがたつた、きをゆつくりと、ほんにはらがたつたかよう、ともにざんねんはよう、けふまではのう身の内入込んだなんの甲斐もないわよう、ウ、、、、ワ、、、、長いあひだのう、やうくのところ、いつ日がてるぞ、何の日がてるぞきをしづめ、さうである、おもふやうにする、きをしづめく。

明治二十五年六月三十日

御札を戴きしものも亦御幣を願ひ出る時は兩方下げて宜敷き哉伺

さあ、尋ねる事情、さあ一時あちらがしなかはる、こちらしなかはる、ふがかは

る、いかなる事よく聞きとれ、一時のこゝろ、事情理をきいて、いつく生涯内々
すんだ心が生涯、それく事情にまかせおかう、みわけき、わけが第一といふ、ぜ
んくよりしらしおいたる。

御幣を下げますには是迄誰かれなしにして居りますが、如何に御座ります哉伺

さあくたいはいはこぶ處、第一の事情からをさめたらまんぞくである、なれど日
々にはいくへの事情あるから、その日は代理事情にまかせおかう。

御幣寸法の事伺

さあくたいの理はきはめ、たいの理は定めにやなるまい。

御授順序の事、御本席に出るのは日に三人宛てありますが、初席は澤山致し升が、講社の數に應じ割付て

矢張日々三人宛として宜敷哉伺

さあくたづねる處、是迄といふ、はじめかけたらどこまでとさとしたる、何名何人
それく定めば一時道がせまい、ようしやんせよ、たのまれん事するやあるまい、た
のんだとするやあるまい、とほい道をはこぶつくす、三年事情、何名でもかまは

ん、日々せはしいそがしと、ぜんくさとしたる、これがたのしみよう聞きとれ。

御供の事伺(御供誰でも袋に入れて持参し御供にして御下けを頼みに参じます此の願)

さあく尋ねにやならん、處々にておもいかるの理はなく、をさめたる處、第一
名をだし、それよりそれくとほくところはとほくところ、ちかく處はちかくとこ
ろ、一名なをだし、おらたすけやといふてくる、こりやどうもならん、みわけ
き、わけがだいじやで。

押して願

さあくそれも一がいの事情にさすやない、それからそれく、又一時とほく事
々も、おうどうの心ではならんから、元一つそれからそれくはこぶやう、おほく
わんまでは、それくの道にさとしおく。

押して願

さあくそれはもうそのとほり、たいせつにせにやならんで、つかんでたべるやう
ではならん、たいせつが第一、たいせつにすればするだけ重々の理にますといふて

おかう。

御教祖豊田山墓所五日取りかゝりの願

さあ〜一時尋ねる處、尋ねる事情、まあかゝりの事情はゆるしおいたる、一つ十分の地所といふ、それ〜重々の理は一時一つをさまり、事情一つどういふ處からどういふ事情、處々どういふ事情、あちらこちら重々の理をあつめるところ、これくはしくつたへる、ばんじ聞取つてくれ。

さあ〜一時一つ、重々の地所おもはく一つの理をさめ又一つ、それ〜かゝりかけるといふ、ほそ〜たるところ〜あちらよかろ、こちらよかろ、めん〜おもふ事情は受取る、ぜん〜さとしたる、おほく地をならし、道をこしらへ、幾日といふきつた日限がある、日はよほど長いやうなものなれどつい〜たつ、だん〜の理をあちらもよせ、こちらもよせ、どうがよかろ、かうがよかろ、つくす處は受取るなれど、一時おほくひろく地をならし、それ〜一寸一とほり道をつけ、まん中に一寸理をこしらへ、こゝかいなあといへば、またなんぞいなあといふ事情にを

さめ、はこぶつくす理は受取る、たゞ受取るといへば、どうしても受取るであらうといふやうなこゝろもつてはならん、世界の理がなくなばならん、しきつてすればおもはくのみちが、だん〜のびるはやい〜。

忠義そまつとはかならずおもふな、是迄さしづの理に定めてくれ。

忠義のみちはまだ〜さきの事。

千里一またげの理はまだ〜であるから、人間の理はすつきりいらん。

しやうまいとおもたて、できかけたらでけるで。

明治二十五年六月三十日

兵神部内社支教會舊閏六月廿一日地搗、舊同月廿八日上棟の願

さあ〜たづねる事情〜、かうしたいと云ふ、ねがふ處はねがひどほりゆるしおかう、心にまかせおかうによりてするがよい。

昭和三年七月廿二日印刷
昭和三年七月廿六日發行



編纂者 天理教々義及史料集成部
奈良縣山邊郡丹波市町大字三島二七一番地

發行者 中山正善
奈良縣山邊郡丹波市町大字三島二七一番地

印刷所 天理教教廳印刷所
奈良縣山邊郡丹波市町大字川原城三〇九番地

印刷者 植田五郎
奈良縣山邊郡丹波市町大字三島三二二番地

終

